

ふるさと講座・自然系

シギ・チドリ観察会！

～春の息吹を感じよう～

この時期数多く見られる「シギ・チドリ」を中心とした観察会を行います。

シギ・チドリ以外にもタンチョウやオジロワシなども観察する事が出来ます。

●日 時 平成23年5月15日（日）

午前9時～12時

●場 所 風蓮湖（走古丹方面）

（集合-郷土資料館）

●講 師 別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇氏

●定 員 15名

（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を5月13日（金）までにご連絡ください。）

●その他 図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも若干貸出しします。

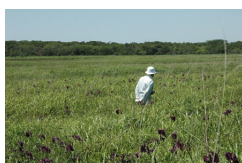


ミヤコドリ

風蓮湖の動植物観察をとめて 別海町郷土研究会

別海町郷土研究会は、毎月第2、4水曜日の午前中に風蓮湖動植物調査を郷土資料館と共同で実施しています。本格的な調査ではありませんが、図鑑を片手にのんびりと鳥や植物を観察したり、四季折々の様々な風蓮湖の風景を楽しんでいます。

調査をはじめてもう6年になり、季節による動植物を想定出来たり、見分けもすばやくなりました。また、この間の海岸浸食のスピードに驚かされるなど、新しい発見も多々あります。次号以降こうした調査の結果などをこのたよりなどで紹介していこうと考えています。



近世の別海を探る 「西別川河口から北」～その6～

トコタン（2）

○地勢と建物など

前期松前藩時代 18 世紀後半

- ・「此処平山木アリ川アリ幅五六間砂濱行」

『松前地井東蝦夷地明細記』高橋壮四郎他 寛政 9 年(1797)

松前藩復領時代 文政 4 年(1821)～安政元年(1854)

- ・「休所 川舟渡 ノツケ江陸路三里半」

『蝦夷地名考并里程記』上原熊次郎 文政 7 年(1824)

- ・「川有り。巾二十間余。番屋有而秋味漁之節は番人出張するよし。ノツケ岬へ行ニは是より沼口を渡り而直に乘行となり。」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化 2 年(1845)

- ・「此処に川有。川幅貳拾間位、深サ四尺程、同所よりはノツケ止宿所まで蝦夷船通路之渡海口に御座候。」『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月 [子モロ場所]』加賀伝蔵 嘉永 7 年(1854)
- ・「ノツケよりトコタン江三リ船、同所ハ夷家一軒」『村垣淡路守公務日記』安政元年(1854)

幕府再直轄時代 安政 2 年(1855)～慶応 3 年(1867)

- ・「(川幅十五六間、人家八軒) …」『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政 3 年(1856)
- ・「扱前にしるす右海岸トコタン川有。巾二十余間、夷家一軒(ニシベツより出張)有レ之レ。」

『竹四郎廻浦日記』松浦武四郎 安政 3 年(1856)

- ・「トコタン人家あり。ノツケまで海上三里。トコタン川より折れば、湖あり。小島多し。」

『蝦夷行程記 巻之下』阿部喜任纂述 松浦武四郎校訂 安政 3 年(1856)

- ・「但トコタンヨリノツケ迄渡海里数入如此…」

『入北記』玉蟲左太夫 安政 4 年(1857)

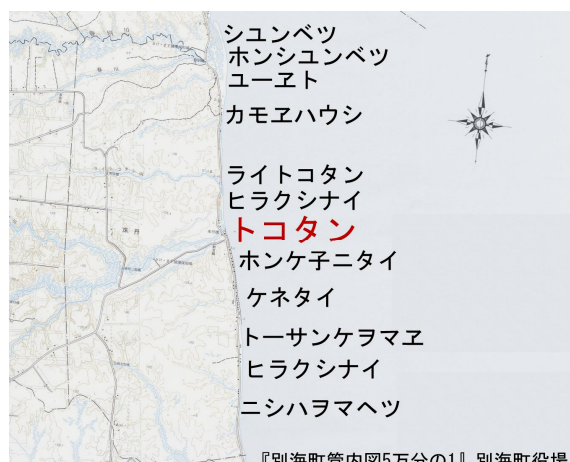
- ・「…諸川…」 「トコタンハ渡り場ニテ此ヨリアツウシベツ…」

『勸国録』石川和助 安政 4 年(1857)

- ・「…トコタン〇いふ夷家一軒なり漁場なし…」

『罕有日記六』森一馬・高井佐藤太 安政 4 年(1857)

- ・「川但巾拾間程 深四尺程 船渡但汐干之節歩渡 土人家 壱軒此所はノツケ江渡海場にて海上貳里貳拾丁程蝦夷船備置五月より十月迄状持人族貳人詰居候 此處餘り流廣くアメ鱒小魚入川漁無之此所海岸ノツケトウ入口地続に候得共」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政 5 年



『別海町管内図5万分の1』別海町役場

別海町郷土資料館だより No.142

発行日 平成23年5月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今回紹介したように風蓮湖には、月 2 回ペースで観察に行っています。爆弾低気圧が通過した時は、外海側は砂が相当堆積しました。今回東北地方を襲った津波に比べると 20 分の 1 ぐらいかと思いますが、6 年の間にも地形が変わっていく様子が解りました。(K.I)